

# 環境パフォーマンス

## 省エネルギー・省資源対策

### 省エネルギー対策

#### 省エネルギー活動

クボタでは1999年度より新たに第3次省エネルギー活動として、エネルギー原単位を年平均1%、5年間で5%以上削減することを目標にアクションプランをスタートしました。1999年度の実績は生産量が少し上向く中で、廃熱回収等の省エネルギー対策を推進することにより、エネルギー原単位を対前年度比1.1%削減しました。

#### 省エネルギー活動概要

##### 第3次省エネルギー活動(1999~2003年度)

目標年度：2003年度

目標：エネルギー原単位 5年間で 5%以上削減  
(1998年度比)

目標：CO<sub>2</sub>排出原単位 5年間で 5%以上削減  
(1998年度比)

備考) エネルギー原単位=原油換算エネルギー使用量/内作生産高  
CO<sub>2</sub>排出原単位= CO<sub>2</sub> 排出量 /内作生産高

#### 第3次全社省エネルギー活動アクション・プログラム

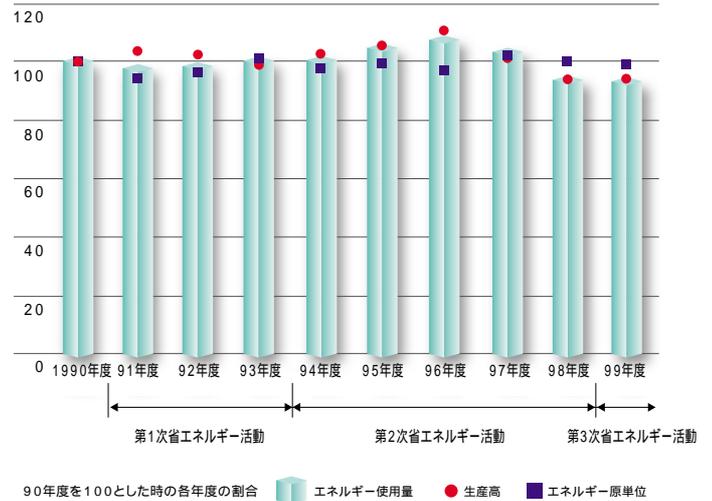
項目	テーマ
運営	1.本社関連部門会議
	2.省エネルギー活動事務局会議
	3.省エネ対策事業所訪問
省エネルギーの推進	1.全社重点投資、一般投資における省エネルギー技術の織り込み
	2.中長期計画の推進
	3.省エネルギー投資(地球環境関連予算適用)
	4.省エネルギー操業による推進
	5.専門家による省エネ診断
	6.新技術の導入
省エネルギー技術者の育成	1.エネルギー管理士の育成
	2.クボタ省エネ研究会の開催
	3.省エネ移動講座派遣
	4.省エネ技術の向上
	5.省エネ教育
省エネルギー活動啓発	1.省エネルギー小集団活動表彰
	2.エネルギー管理優良工場への挑戦
	3.クボタ省エネルギー白書
	4.事業所エネルギー管理規定類の整備

#### エネルギー使用量の削減

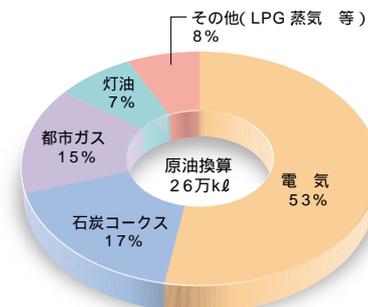
1999年度のエネルギー使用量は原油換算で26万kℓとなりました。

省エネルギーに向けた取り組みとしては、省エネ登録テーマの推進、省エネルギートップランナー機器の採用、ISO 14001等をツールとして原単位1%削減を目標に取り組みました。また、エネルギー管理標準の作成および現場での実施を通じ、きめこまかな管理による省エネルギーに努めました。具体的な省エネルギー対策としては、キュボラ廃熱回収設備改善(高温熱風化)、排風・送風機および集塵機等の回転数制御、溶解炉の効率操業(休日空炉化)、高効率インダクター採用の保持炉導入、塗装設備浸管ヒーター採用による熱効率の向上、省エネオープン炉の導入、モーターの空運転防止、空調設備の熱損失低減、エアリーク対策等を実施しました。

#### 全社のエネルギー使用量推移(1990年度を100とした時の各年度の割合)



#### 1999年度全社のエネルギー種類別使用量

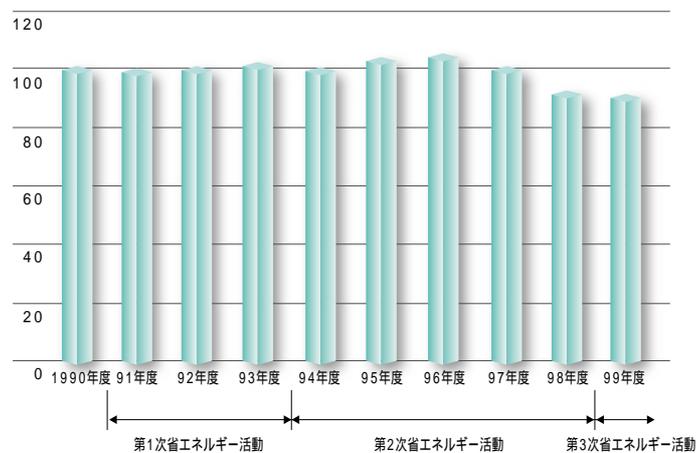


### CO<sub>2</sub>排出量の削減

1999年度のCO<sub>2</sub>排出量は炭素換算で16万トンと前年と同レベルでした。

COP3で定められた温室効果ガス排出量を1990年度比2010年6%削減する目標に対し、省エネルギー活動等により、CO<sub>2</sub>排出量は8%低減しました。今後も省エネルギー活動等により、目標値を維持していきたいと考えています。

CO<sub>2</sub>排出量推移(1990年度を100とした時の各年度の割合)

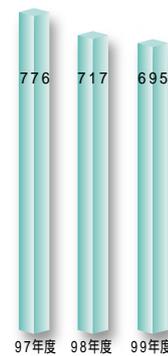


### 省資源対策

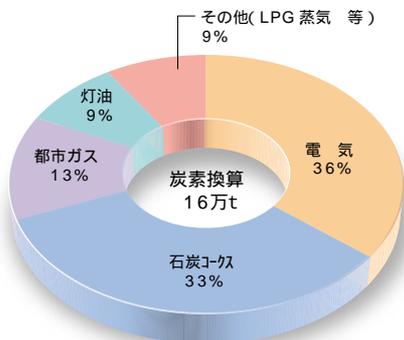
#### 水資源の有効利用

排水のリサイクル、中水利用などを推進した結果、1999年度における受水量は695万m<sup>3</sup>と前年度比3%削減となりました。今後もさらに節水と水のリサイクルに努めます。

水使用量推移(万m<sup>3</sup>)



1999年度全社のCO<sub>2</sub>排出量(万t)



1999年水使用量内訳(万m<sup>3</sup>)

